

防除所情報第4号

令和4年3月22日
山梨県病害虫防除所

【施設栽培トマトの黄化葉巻病対策について（半促成栽培）】

[発生の状況]

令和3年の抑制栽培におけるトマト黄化葉巻病の発生は平年より多かった。その後、令和4年3月上旬の巡回調査では、コナジラミ類の発生は確認されなかったが、わずかではあるが黄化葉巻病の発生が確認された。本病害はコナジラミ類の一種であるタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）により引き起こされる。

[今後の予想]

- (1) 気象庁3月17日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高くなる見込みである。このため、今後気温の上昇とともに本病を媒介するタバココナジラミの活動が活発となり、施設外から施設内へ飛び込み、施設内での発生が増加する可能性がある。
- (2) 半促成栽培の施設内で黄化葉巻病感染株が増加し、本病ウイルスを保毒したタバココナジラミが増殖すると、次作の抑制栽培トマトにおいても本病害の早期発生及び多発が予想され、大きな被害となることが懸念される。

[防除対策]

本病害の病原ウイルスの感染を防ぐには、媒介虫であるタバココナジラミの防除が重要であるため、以下の対策を徹底する。

半促成栽培生育期の対策

- 施設の出入り口や開口部を中心に黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の発生状況を定期的に確認して、発生初期の防除を徹底する。
- コナジラミ類は、トマトの生育初期～中期には下葉の裏に多いため、薬剤散布は低い位置から葉裏に十分薬液がかかるよう丁寧に行う。
- 同一系統薬剤の連用は、薬剤効果の低下につながるため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を実施する（薬剤については表1参照）。
- 発病株を発見したらすぐに抜き取り、直ちに防除を行う。
- 抜き取った株や芽かきした茎葉は、ビニール袋に入れ密封し十分に枯死させてから持ち出す。
- 施設内外の雑草はコナジラミ類の増殖源となるため除去する。

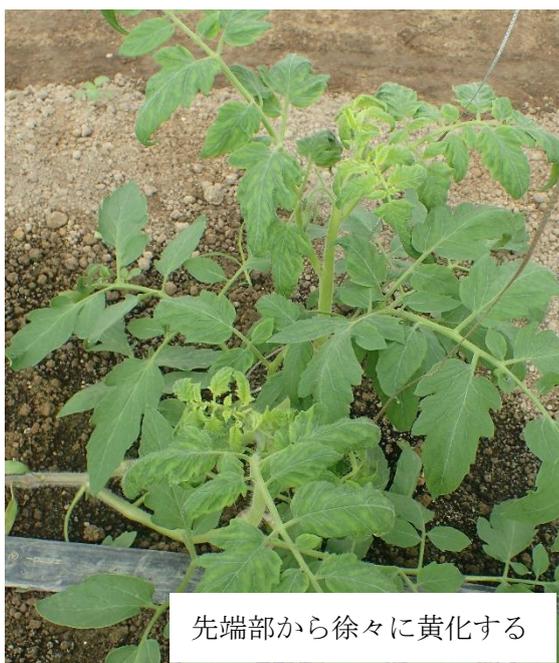


表1 トマトにおけるコナジラミ類に登録のある主な薬剤（生育期）

薬剤名	RACコード	希釈倍率	使用時期	使用回数
ベストガード水溶剤	4A	1000～2000倍		3回以内
スタークル顆粒水溶剤	4A	2000～3000倍		2回以内
アルバリン顆粒水溶剤				
モスピラン顆粒水溶剤	4A	2000倍		3回以内
ディアナSC	5	2500倍		2回以内
ダブルシューターSE	5、－	1000倍		2回以内
アフーム乳剤	6	2000倍		5回以内
アニキ乳剤	6	1000～2000倍	収穫前日 まで	3回以内
コロマイト乳剤	6	1500倍		2回以内
コルト顆粒水和剤	9B	4000倍		3回以内
モベントフロアブル	23	2000倍		3回以内
ベネビアOD	28	2000倍		3回以内
グレーシア乳剤	30	2000倍		2回以内
ファインセーブフロアブル※1	34	1000～2000倍		3回以内
サフオイル乳剤	－	300倍		－
フーモン	－	1000倍		－

※1 タバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミ含む）適用

発病初期の様子



症状が進んだ様子

